

ヨハネの黙示録 1 章 17 節-2 章 7 節

七つの教会への七つの手紙(1)

1:17 それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、

1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。

1:20 わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

2:1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。2:2 「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。2:3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。2:4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。2:5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行き、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。2:6 しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行いを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』』

はじめに

黙示録1:1 「イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。」

黙示録の一番最初の文章に気が付いて頂きたいですが、これはイエス・キリストの啓示です。使徒ヨハネは先ず、イエス様の天国に於ける栄光の姿を見せられて足元に倒れて死者のようになりました。

黙示録1:17-18 「それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。」

私達人間全てが使徒ヨハネと同じです。イエス様を永遠に生きている神のひとり子として見る事ができるまで、自分の本当の姿を知らないし、この世の全ての物の本当の姿も見えていません。使徒ヨハネはイエス様の足元に倒れて死者のようになりましたが、イエス様は怖がらせる為に自分の啓示を見せたのではなく、いつものようにすぐに「恐れるな」と言って平安を与え、立ち上がるようにさせました。

今日から、イエス様が天国から七つの教会に送った手紙を一緒に見て行きましょう。一つ一つの手紙の結論にこう書いてあります。「耳のある者は御霊が諸教会に言われる事を聞きなさい。」

つまり、これらはその教会の信者の為だけではなくて、イエス様の全ての信者の為に書かれたのです。その上、一つ一つの手紙の結論として勝利を得る者の為の素晴らしい約束があります。その中でイエス様は勝利を得る者と言う意味も説明して下さいました。「勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には...」

よく聞いて、よく覚えておいていただきたいのは、神の約束は全て、最後まで信じ続ける人のためのものです。それを心に置いて今日配っている教会のニューズレターの記事を読んで頂きたいです。ニューズレターが読めない人の為に後でもっと詳しく説明します。それでは、今日は、天国から最初に送られた手紙を一緒に見てみましょう。

1. イエス様の自己紹介(黙示録2:1)

2:1 「エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。』

七つの手紙にあるイエス様の自己紹介は全部違います。なぜなら、それぞれの必要に応じて自分を現わして下さるからです。ここでイエス様は自分について二つの事を言っています。まず「右手に七つの星を持っている」事、そして「七つの金の燭台の間を歩いている」ということです。その意味は1:20にはっきり書いてあります。

1:20 「わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。」

七つの教会の間を歩いているというのは分かりやすく、まだ地上にいる時にイエス様が言った言葉を思い起こします。

マタイ18:19-20 「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつ一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。18:20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」

イエス様はいつも自分の教会が集まる所にいるので、信者として集まって礼拝するのが素晴らしい特権というだけでなく、神様はそれによって私達の信仰を強めて守って下さいます。

ヘブル10:25-26 「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

10:26 もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。」

今日、皆さんに配っている教会のニューズレターで、もっと詳しく説明していますので、是非読んで頂きたいです。読めない人の為に簡単に言いますが、ヘブル人の手紙は聖書全体の中でも「イエス様から離れないで、信仰を捨てないように」という強い警告が最も沢山書いてある手紙です。今読んだ箇所はその多くの警告の中の一つなので、今、特にこの時代に於いて神様はそれを通して私達に語って下さっています。

燭台は教会の存在の目的を示していますから、教会は世の光としてイエス様の光を輝かせる為に存在しているのです。

それはイエス様の最も有名な説教である山上の垂訓の教えと一致しています。

マタイ5:14-16 「あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。5:15 また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。

5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

もちろん、教会の最大の目的はイエス様の証をする事です。まず行いによってイエス様の光を輝かせて、そして言葉によって証をする事が出来るようになります。行いをしていない人は当然言葉によって証することが出来ません。この二つは切り離せません。自己紹介でイエス様がもう一つ言ったのは、七つの教会の星、つまり御使いを右の手で持っているということです。この解釈については意見が分かれています。聖書の他の箇所でも、星は象徴的に天使のことを指して使われています。天使は神様の大切な知らせを届けていますから、御使いと訳されている言葉には、使者(メッセンジャー)という意味も含まれています。この手紙は教会に送られていますが、指導者が使者として教会が集まっているときに手紙を読み上げると言う事です。

聖書では神様の右の手と言う表現は神様の力が働くという意味です。イエス様は神の右の座に着いておられるので、イエス様は天に帰られる時に、地上の最後の言葉として
マタイ28:18-19「28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、」
と言われました。迫害が起こる時に、普段は最初に狙われる人、または最初に殺されるのは指導者ですが、イエス様は「全能の力を使ってあなたがたを守ります。私の許可がなければ、誰もあなたがたに対して何も出来ません。」と言われているのです。

2. イエス様の励ましの言葉 (黙示録2:2-3)

2:2「わたしは、あなたの行ないとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。

2:3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。」

イエス様はこうして厳しい言葉を言う前に沢山の励ましの言葉をもって彼らを力づけています。

黙示録2:6「しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行ないを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。」

未信者の日本人の中でも、「罪を憎んで罪人を憎まず」ということわざから、キリストの教えを知っている人もいます。イエス様はこの天からの手紙でそのように言って彼らを励ましています。エペソの教会の信者達は、イエス様が憎んでいる罪を同じように憎んでいました。

それでは、ニコライ派の罪は何だろうかと考えさせられます。具体的に書いていませんし、聖書学者達の注解書を見ても、100%の確信を持って説明出来る答えは出て来ません。いつも言うことですが、聖書の一番良い注解書は聖書自体です。聖書全体の中でニコライ派と言う言葉が2回しか書いてありませんが、そのもう一箇所を見て下さい。

黙示録2:15「それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。」これはペルガモにある別の教会への手紙の部分ですが、イエス様は彼らに「あなたがたの住んでいる場所はサタンの大座のある所です」と言っていました。その意味は最大の偶像礼拝の場所だと言う事です。エペソにも同じように大きい有名な偶像礼拝の神殿がありました。

使徒19:26-27「19:26 ところが、皆さんが見てもいるし聞いてもいるように、あのパウロが、手で作った物など神ではないと言って、エペソばかりか、ほとんどアジア全体にわたって、大ぜいの人々を説き伏せ、迷わせているのです。

19:27 これでは、私たちのこの仕事も信用を失う危険があるばかりか、大女神アルテミスの神殿も顧みられなくなり、全アジア、全世界の拝むこの大女神のご威光も地に落ちてしまいそうです。」

イエス様に嫌われているニコライ派の行いは間違いなく偶像礼拝とそれに関わる行いです。

残念ながら、ペルガモの教会の一部の人はそれに負けて妥協してしまいましたが、エペソの教会の信者はそのニコライ派の行いをイエス様と同じように憎んでいて、イエス様に褒められていました。こうして必要な厳しい言葉で叱る前と叱った後でも、イエス様は彼らに励ましの言葉で力づけてあげたのです。

マタイ12:20「彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、公義を勝利に導くまでは。」

どんなに小さい信仰でも、ちょっとした風で消えてしまうような信仰でも、イエス様は大切に育てて守って下さる優しい救い主です。私達も全く同じ扱い方をして下さいます。私達を正す為に、間違った方向から取り戻す為に愛のむちを使わなければならない時があります。全ての神の子どもが必ず体験する事です。自分が神様の子どもである証拠の一つだと受け止められれば、後から感謝に変わります。

それでは、エペソの信者達がイエス様に叱られた事を見てください。

3. イエス様の注意の言葉

黙示録2:4-5. 「しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。2:5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行ないをなささい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行つて、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。」

この箇所について説教した事がある牧師は大勢いますし、聖書の注解書にも沢山の学者が書いた説明もありますが、「悔い改めて初めの行ないをなささい」と言うイエス様の言葉は何を指して言っているかの意見が色々あります。大半は、エペソの信者のイエス様に対する愛が冷め、形式だけの宗教の行事を続けていると解釈しています。「初めの愛から、離れてしまった」と書いてあるから私はある程度その解釈を理解出来るのですが、イエス様に褒められている事の内容を考えると、形式だけの宗教を行うようになるまで愛が冷めていたとは思えません。しかも、後でイエス様はサルデスにある教会に送った手紙でそのような状態を全然違う言葉で表現しています。

黙示録3:1また、「サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。」

これは間違いなく形式だけの状態で、しかも、完全に離れてしまう一番危険な状態なので励ましの言葉の前に直球で、最初から警告をはっきり言わなければなりません。

エペソの信者達に対して叱った言葉に戻りますが、いつものように聖書自体を聖書の注解書とするのが一番ですから、エペソの最初の行ないを確認する為にその教会の始まりの記録を見てみたらどうでしょうか。

使徒19:9-10「しかし、ある者たちが心をかたくなにして聞き入れず、会衆の前で、この道をののしったので、パウロは彼らから身を引き、弟子たちをも退かせて、毎日ツラノの講堂で論じた。これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のこゝばを聞いた。」

何がこの教会の最初の行いかと言いますと主の言葉を幅広く伝えていたことです。アジアに住む者は皆、主の言葉を聞きました。このアジアはもちろん、私達のいるアジアではありませんが、小アジアと呼ばれていた現代のトルコの国を意味しています。それにしても、伝道に熱心でアジア全体の皆が、主の言葉を聞いたと言うのは凄いです。

残念ながら、彼らはその最初の行いから離れて、一生懸命にイエス様の名前の為に働いていましたが、それは教会を守る為だけでした。これは教会の歴史でよく見られるパターンです。特に教団と言う組織を作る事によって、組織を守るのが優先になってしまう事がよくあります。それでは神様を知らないこの世の価値観と同じやり方になってしまいます。典型的な考え方は組織を守る為にも一人でも、犠牲にするのは仕方がないという考え方です。悪魔はその考え方を通して働き、イエス様を殺してしまいました。

ヨハネ11:50「ひとりの人が民の代わりに死んで、国民全体が滅びないほうが、あなたがたにとって得策だということも、考えに入れていない。」

イエス様の教えた事と真逆です。よい羊飼いは99匹の羊が無事で安全でも、失われている一匹を見付けるまで探し続けて、見付けたときに最初から無事だった99匹の事よりも、見付けた一匹の事を喜んでみます。

エペソの信者達は本来の教会の目的を忘れてしまっているのです、イエス様の注意の言葉はそれを現わしています。イエス様は自己紹介からこの手紙の最後まで燭台の本来の目的について話しています。

黙示録2 : 5b「もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行つて、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。」

間違った解釈をしないでください。あなたがたを救いから外す、とは言っていないですが、あなたがたの証をその置かれている場所から取り外すと言っています。

私は以前一回だけこの事について話しをして、その後で帰国した時に、母教会で牧師がエペソについて話をしているのを聞いてびっくりしました。そしてそれを神様からの再確認として受け止めま

した。エペソには何年も前から一つも教会はありません。イエス様の言葉通りになってしまいました。

まとめ-イエス様の約束

黙示録2:7 「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。」』

七つの手紙の最後に素晴らしい約束があります。

全ての約束は「勝利を得る者に」与えられています。その意味は後の2:26に書いてあります。

「勝利をえる者、また最後まで私のわざを守る者」と言うのはイエス様の信仰を最後まで自分から捨てないで、その人にエデンの園で最初の罪によって失われた永遠の命を約束されているのです。